

令和7（2025）年度 事業報告

学校法人 中越学園

令和7年4月1日～令和8年3月31日

令和7（2025）年度 事業報告

1. 法人の概要

(1) 基本情報

- ①法人の名称 学校法人中越学園
- ②主たる事務所 住所：新潟県長岡市御山町 80 番地 8
TEL：0258-39-1610
FAX：0258-35-1157
URL：<https://www.nagaokauniv.ac.jp/guide/chuetsu-gakuen/>

(2) 学校法人の沿革

- 明治38年12月 女子師範学校入学の予備教育を目的とする私塾として開校、斎藤女学館と称する
- 大正15年2月 甲種実業学校として設置認可される
- 昭和3年10月 長岡高等家政女学校に改称する
 - 19年3月 財団法人長岡女子商業学校として設置認可され、校名を変更する
 - 21年3月 財団法人名と学校名を、長岡高等家政女学校に改称する
 - 23年4月 新制高等学校に転換し、長岡家政学園高等学校と称し、中学校を併設
 - 26年2月 財団法人を学校法人長岡家政学園に組織変更認可される
 - 31年4月 高等学校名を中越高等学校と改称し、男女共学とする
 - 34年12月 学校法人名を中越高等学校と改称する
 - 42年6月 長岡みどり幼稚園開校
 - 46年3月 法人名を中越学園に改称する
 - 46年4月 長岡女子短期大学(経済学科)開校
 - 48年4月 長岡短期大学に改称する
 - 61年4月 長岡短期大学経済学科を経済専攻と経営情報専攻とに専攻分離
- 平成2年4月 長岡短期大学経営情報学科開設
 - 3年10月 長岡短期大学地域研究センター設立
 - 5年4月 長岡短期大学専攻科開設
 - 6年4月 長岡短期大学生涯学習センター設立
 - 8年3月 中越高等学校商業科廃止
 - 11年9月 長岡みどり幼稚園廃止
 - 13年4月 長岡大学(産業経営学部産業経営学科)開校
 - 14年7月 長岡短期大学廃止
 - 19年4月 長岡大学(経済経営学部環境経済学科・人間経営学科)を設置
(産業経営学部を募集停止)
 - 24年3月 長岡大学産業経営学部産業経営学科廃止
 - 26年4月 長岡大学(経済経営学部経済経営学科)を設置
(経済経営学部環境経済学科・人間経営学科を募集停止)
長岡大学地域連携研究センター設立
(長岡大学地域研究センター及び長岡大学生涯学習センターを合併)
 - 28年8月 長岡大学収容定員増に係る学則変更認可
 - 29年4月 長岡大学収容定員変更(320名→400名)
 - 30年5月 長岡大学経済経営学部人間経営学科廃止
- 令和2年5月 長岡大学経済経営学部環境経済学科廃止
- 4年4月 長岡大学収容定員変更(400名→500名)

(3) 設置する学校・学部・学科等

長岡大学 経済経営学部 経済経営学科
中越高等学校 全日制 普通科

(4) 学校・学部・学科等の学生数の状況

(令和8年5月1日現在) (単位:人)

学校名		入学定員	入学者数	収容定員	現員数
長岡大学	経済経営学部 経済経営学科	125	83	500	381
中越高等学校	全日制 普通科	320	425	960	1,085

(5) 収容定員充足率

(毎年度5月1日現在)

学校名	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
長岡大学	107.1%	99.3%	86.9%	83.6%	76.2%
中越高等学校	87.5%	94.8%	99.4%	104.7%	113.0%

※長岡大学収容定員:500名

※中越高等学校収容定員:960名

(6) 役員の概要

【理事】 定員:10名 現員:10名

【監事】 定員:2名 現員:2名

(令和8年5月1日現在)

役職	氏名	就任年月日	常勤/非常勤	現職
理事長	村山 光博	令和8年4月1日	常勤	長岡大学 学長
理事	萩野 俊哉	令和8年4月1日	常勤	中越高等学校 校長
理事	石川 英樹	令和6年6月1日	常勤	長岡大学 副学長
理事	若木 慈	令和5年6月1日	常勤	中越高等学校 教頭
理事	鎌田 積 (外)	令和6年4月1日	非常勤	(学)都築学園 神戸医療未来大学 学長
理事	小島 孝之 (外)	令和6年4月1日	非常勤	(株)東亜 代表取締役社長
理事	小川 浩司 (外)	令和5年6月1日	非常勤	(株)相互タクシー 代表取締役社長
理事	佐竹 和行 (外)	令和7年5月29日	非常勤	(公社)中越防災安全推進機構 業務執行理事
理事	大出 恭子 (外)	令和7年6月1日	非常勤	green philosophy 代表
理事	市村 二三代 (外)	令和7年10月29日	非常勤	(税)ながおか会計 代表社員税理士
監事	駒形 佳昭	令和5年6月1日	非常勤	岩塚製菓(株) 内部監査室
監事	北村 将志	令和7年7月20日	非常勤	北村公認会計士事務所 副所長

※(外)は外部理事

(7) 評議員の概要

【評議員】 定員:11名 現員:11名

(令和8年5月1日現在)

役職	氏名	就任年月日	現職
評議員	轡田 雅晴	令和5年4月1日	長岡大学 事務局長
評議員	後藤 暁	令和5年6月1日	中越高等学校 教頭
評議員	波多野 孝則	令和8年4月1日	中越高等学校 事務長
評議員	石川 貴也	令和6年9月11日	第四北越証券(株) 勤務
評議員	小林 拓史	令和6年4月1日	(株)高助 勤務
評議員	牛腸 正	令和7年6月11日	元中越高等学校教諭
評議員	小柳 新一	令和7年6月11日	中越高等学校 卒業生
評議員	矢澤 和比呂	令和6年4月1日	ロートニッテン(株) 勤務
評議員	諸橋 陽一	令和6年4月1日	信越興業(株) 代表取締役
評議員	由本 直樹	令和6年6月1日	ミリオンパック(有) 代表取締役
評議員	中村 一樹	令和7年5月29日	防災科学技術研究所極端気象災害研究領域 雪氷防災研究センター センター長

(8) 会計監査人の概要

【会計監査人】定員：1名 現員：1名

【名称又は氏名】田熊公認会計士事務所 代表 田熊宏國

【就任年月日等】令和7年5月29日

(9) 責任免除に関する決議等、責任限定契約、補償契約及び役員賠償責任保険契約の状況

(令和7年度契約の賠償責任保険関係。保険会社は全て東京海上日動火災保険㈱)

・役員賠償責任保険

【加入責任期間】令和7年4月1日～令和8年4月1日

【被保険者】中越学園の理事・監事、評議員、執行役員、管理職従業員、社外派遣役員、退任役員

【支払限度額・免責金額】保険期間中総支払限度額 300,000千円 (免責金額 0円)

【保険料】112,000円

・学校教育活動賠償責任保険

【加入責任期間】令和7年4月1日～令和8年4月1日

【記名法人名】学校法人 中越学園

【被保険者】学校法人、役員、教職員

【支払限度額・免責金額】保険期間中総支払限度額 50,000千円 (免責金額 0円)

【保険料】452,000円

・サイバーリスク保険

【加入責任期間】令和7年4月1日～令和8年4月1日

【記名法人名】学校法人 中越学園

【被保険者】学校法人、役員、教職員

【支払限度額・免責金額】保険期間中総支払限度額 (免責金額 0円)

〔賠償〕100,000千円 損賠賠償金や争訟費用での支払限度額

〔費用〕50,000千円 原因調査やお見舞対応にかかる賠償と関係しない費用の支払限度額

【保険料】283,000円

(10) 理事選任機関の概要

学校法人中越学園寄附行為第6条第1項及び第2項において、本法人の理事選任機関を評議員会とし、理事選任機関の構成員を全ての評議員と定めている。

(11) 教職員の概要

(令和8年5月1日現在) (単位：人)

	本務教員数	本務職員数	兼務教員数	兼務職員数
法人	0	1	0	0
長岡大学	23	20	12	7
中越高等学校	64	6	14	4
計	87	27	26	11

2. 事業の概要

I 法人に関する事業の概要

令和7(2025)年度事業における法人部門については、令和7年4月に施行された改正私立学校法に対応した新しい寄附行為の下で適切な法人運営に努めた。また、同法の改正にともなう大臣所轄学校法人等における内部統制システム整備の義務化に対応し、本学園においても4月1日付で理事長の下に内部監査室を設置し、会計監査人及び監事との連携体制を構築した。

第2期中期計画(令和4～10年度)の4年目となる令和7年度においては、以下の項目について重点的に取り組んだ。

(1) 改正私立学校法に対応した適切な法人運営の遂行

- ・令和7年4月に施行された改正私立学校法に対応した新しい寄附行為に従い、適切な法人運営を遂行した。
- ・令和7年4月に施行された改正学校法人会計基準に対応し、適切な会計処理に努めた。

(2) 計画的な内部監査の実施

- ・改正私立学校法で義務化された「内部統制システムの体制整備」に対応し、令和7年4月1日付で理事長の下に内部監査室を設置した。
- ・内部監査室は、「学校法人中越学園 中長期内部監査計画」(4年間)、「令和7年度内部監査計画」を策定し、今年度は予備調査として大学の全部署の責任者を対象にヒアリング調査を実施した。
- ・内部監査室長は、理事会・評議員会に積極的に出席し、監査計画及び予備調査の結果を報告するとともに、適宜役員や監事との意見交換に努めた。

(3) 日本私立大学協会ガバナンス・コードの遵守

- ・日本私立大学協会が策定した「私立大学ガバナンス・コード<第2.0版>」を遵守し、その遵守状況を同協会に報告するとともに、本学園のウェブサイト上で公開した。

(4) 長岡大学2号館の耐震改修に向けた計画策定

- ・中越高等学校の改修計画を優先したため、今年度は計画策定に着手に至らなかった。
- ・あらためて令和8年度中の計画策定を目指す。

II 長岡大学に関する事業の概要

(1) 建学の精神

- ・幅広い職業人としての人づくりと実学実践教育の推進
- ・地域社会に貢献し得る人材の育成

(2) 教育目標

<大学の使命・目的>

長岡大学は、地域社会の中核となる、地域に貢献できる人材を育成することをその使命とする。地域社会で生活していくためには、まず社会的・職業的に自立することが重要であり、しかもそれは他の人に容易に代替が効く「部品」ではなく、個性と人格を持った存在として認められるようになることが望まれている。本学においては、職業人として自立するための各種技能と、社会人として求められる一般教養など基礎的能力を併せて教育し、地域社会の要請に応えようとするものである。

<経済経営学部・学科の使命・目的>

経済学と経営学の基礎およびその学際領域を実践的に学ぶことで、持続可能な地域社会の実現に向けて自ら行動することのできる社会人基礎力と職業人として通用する専門的知識・技能を涵養する。

<教育ビジョン>

ビジネスを発展させる能力と人間力を鍛えるとともに、「毎日の大学生活で充実感を、能力アップを確かめて達成感を、卒業のとき4年間を振り返って満足感を」実感させることを目指す。

(3) 長岡大学“三つの方針”および“学修成果と教育成果の点検・評価に関する方針”

(3-1) 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

長岡大学（以下、本学）では、建学の精神を踏まえ、次に掲げる能力を備えて地域社会の発展に貢献できる自立した人材を育成するものとし、本学学則に定める卒業要件に必要な年数以上在学し且つ単位を修得した学生に対し、学士の学位を授与します。

1 地域社会に貢献する姿勢

地域社会の実情を理解し、地域社会のために主体的に行動することができる。

2 職業人として通用する能力

企業や団体等の組織において職業人として必要とされる基本的な知識や能力を身につけ、行動することができる。

3 専門的知識・技能を活用する能力

常に自身の専門的知識・技能を高めることに取り組み、実際の場面に応じてそれらを活用することができる。

4 コミュニケーション能力

他者の意見や考え方を受け止め、理解するとともに、自分の意見や考え方をわかりやすく他者に伝えることができる。

5 情報収集・分析力

課題解決に向けた効果的な情報収集ができ、得られた情報の定性分析や定量分析を行うことができる。

(3-2) 教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）

本学では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる知識・技能等を修得させるために、教養科目、ゼミナール科目、専門科目の各区分において必要とされる科目を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を開講します。

教育内容、教育方法、教育評価については以下のように方針を定めます。

教育内容

- 1) 教養科目をキャリア科目、語学科目、情報科目、一般教養科目、体育科目の5つの科目群に区分し、専門教育の基礎となる知識と幅広い職業人として求められる教養を学修します。キャリア科目では、産業と職業の基礎知識の学修、自らのキャリア形成の目標の明確化、社会人として修得しておくべき基本的なビジネスマナー等の理解を図ります。グローバル社会に対応する語学力を養成するために、英語の他に中国語、韓国語、日本語（留学生科目）を学びます。実務で必要とされる情報収集・分析力を高めるために、コンピュータを使った基礎的な文書作成能力や表計算処理能力及び数理・データサイエンス等の情報関連の基礎知識を修得します。
- 2) ゼミナール科目を各学年に必修として配置し、1年次では初年次教育として大学での学びの基本、数学的能力、コミュニケーション能力、2年次では文書作成能力、プレゼンテーション能力、課題発見能力等を養成します。3年次と4年次では、卒業論文または活動報告書を成果物とする専門分野のテーマに基づいた調査研究への取り組みを通して、課題解決力や社会人基礎力を養成します。
- 3) 専門科目として、「経済」、「経営」、「会計」、「マーケティング」、「情報」の5つの専門コース（履修モデル）に関連する専門的な知識・技能を学修します。学生が選択した2つの専門コースにおいて、資格取得に対応した授業科目を含むコース推奨科目を履修することで、希望する進路に向けた専門能力を養成します。
- 4) 地域の実態把握、現場・企業の体験、地域課題を扱う地域志向科目により、地域社会への理解を深め、実践力と社会人基礎力を養成します。

教育方法

- 1) 学生の主体的な学修環境を実現するために、アクティブ・ラーニング手法を各授業科目の目標や進め方に合わせて実施します。
- 2) 1年次から4年次までの各ゼミナール担当教員がアカデミック・アドバイザーとして、学生の修学や学生生活に関する相談や指導等を行います。
- 3) 実践的な学修を推進するために、地域志向科目では学外での体験学修や地域で活躍する専門家を招聘する外部講師授業を積極的に取り入れます。
- 4) 専門知識の定着と学習習慣の醸成を目的として、学生の計画的な資格取得を推奨し、資格に対応した授業を資格対応科目として実施します。

教育評価

- 1) 大卒者として社会で求められる汎用的な能力・態度・志向等の学生個人の能力・資質等を客観的に評価するためのテストを学年ごとに実施し、社会人基礎力の測定を行います。
- 2) 各学科で定めた卒業要件（必修・選択科目等）の修得状況と各科目のシラバスで定めた成績評価によって総合的に評価を行います。

(3-3) 入学者選抜の方針（アドミッション・ポリシー）

本学は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成の方針（カ

リキュラム・ポリシー) に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を備えた人物を求めます。

- 1 高等学校までの履修内容のうち、国語を通じて、聞く・話す・読む・書くというコミュニケーション能力の基礎的な内容を身につけている人物
- 2 高等学校までの学校生活におけるグループ活動や委員会活動等で他者と協働して取り組んだ経験を持ち、その中での自分の役割と成果を分析して説明することができる人物
- 3 学習意欲旺盛で新しい課題に自ら挑戦できる人物
地域の課題解決に関心があり、大学で学ぶ知識や経験を地域社会で活かしたいという目的意識と、卒業後は地域をリードしたいという意欲を持つ人物を求める。

(3-4) アセスメント・ポリシー (学修成果と教育成果の点検・評価に関する方針)

本学は、以下の方法により学修成果と教育成果の点検・評価を行います。

長岡大学 アセスメント・ポリシー

検証区分	入学前 (入学直後)	在学中	卒業時 (卒業後)
検証区分	アドミッション・ポリシーの理解と学修計画の検証	カリキュラム・ポリシーに沿った学修の進行と単位認定、進級判定の状況の検証	ディプロマ・ポリシーを満たす人材の育成と学生の成長に関する自己評価の状況を検証
機関レベル (大学全体)	<ul style="list-style-type: none"> ・入学試験 (口頭試問含む) ・入学希望理由書の記載内容 ・調査書の記載内容 ・入学時アンケート ・統一テスト (国語、数学、英語) ・PROG テスト ・リーディングスキルテスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・GPA ・修得単位数 ・退学率、休学率、留年率 ・退学・休学・留年の理由 ・卒業論文、地域活性化プログラム活動報告書 ・PROG テスト ・社会人基礎力ルーブリック評価 ・学生満足度調査 ・リーディングスキルテスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・学位授与数 ・就職率 ・資格取得・検定合格者数 ・学生満足度調査 (4年生質問項目) ・卒業生アンケート ・就職先ヒアリング ・PROG テスト
教育課程レベル (学部)	<ul style="list-style-type: none"> ・入学試験 (口頭試問含む) ・入学希望理由書の記載内容 ・調査書の記載内容 ・入学時アンケート ・統一テスト (国語、数学、英語) ・PROG テスト ・リーディングスキルテスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・GPA ・修得単位数 ・退学率、休学率、留年率 ・退学・休学・留年の理由 ・卒業論文、地域活性化プログラム活動報告書 ・PROG テスト ・社会人基礎力ルーブリック評価 ・学生満足度調査 ・リーディングスキルテスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・学位授与数 ・就職率 ・資格取得・検定合格者数 ・学生満足度調査 (4年生質問項目) ・卒業生アンケート ・就職先ヒアリング ・PROG テスト
科目レベル (授業科目)		<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価 ・資格取得による単位認定 ・授業評価アンケート 	

(4) 中期計画に基づく令和7年度事業の進捗及び達成状況

第2期中期計画（令和4～10年度）に掲げる長岡大学の目指す将来像の達成を目指して、当該計画の4年目となる令和7年度においては、以下の項目について重点的に取り組んだ。

(4-1) カリキュラム・教学改革

① カリキュラムの継続的な点検と改善

- ・文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」に認定された「データサイエンス基礎」（1年次必修 教養科目：2単位）の点検・評価を行い、概ね順調に実施されていることを確認した。（1年生を中心に112名が履修、うち97名が単位修得）
- ・地域志向科目として開講している寄附講座「暮らしと行政」（1年次選択 教養科目）の学生の履修促進を図ることで、履修者が52名（令和6年度は12名）と大幅に増加した。
- ・シラバスの記載内容を点検し、学生の主体的な学びを促す情報がわかりやすく記載されるように各科目担当教員に修正を依頼した。
- ・高等学校の探究学習と本学との高大連携が具体的にいくつか実施されたことから、学内のカリキュラム検討委員会においてこれらの内容を共有し、今後の高大連携の進め方について検討した。

② 教育力の向上

- ・教育力の向上のため、FD（Faculty Development：教員の資質開発）会議を計画的に実施し、教授内容・方法の改善と向上に取り組んだ（表1参照）。

表1 令和7(2025)年度 FD 開催実績

開催日	開催時間	内容
6月18日(水)	17:45～18:30	PC やスマートフォンを利用した簿記学習システムによる早期学習と学び直し支援
8月21日(木)	10:40～12:10	授業の過程での著作物利用 ～改正著作権法35条に基づいて～
9月17日(水)	14:00～14:30	京都FD・SDフォーラムの報告
9月17日(水)	14:40～17:00	科目群毎の学修成果の現状分析と文章化に関するワークショップ ～ループリックや系統図を用いて～
10月22日(水)	16:30～17:30	シラバス記載方法の説明
3月4日(水)	15:30～16:30	地域志向教育研究発表会

- ・開講したすべての授業科目において学期末に履修者への授業評価アンケートを実施し、集計結果を科目担当教員にフィードバックすることで授業改善を促した。
- ・本学の特徴的な教育プログラムである「学生による地域活性化プログラム」を推進し、当年度は10ゼミナールの学生156名が地域の課題をテーマに調査研究に取り組んだ。また、12月6日(土)に一般公開で開催した「第19回 学生による地域活性化プログラム成果発表会」(ホテルニューオータニ長岡「NCホール」)において、各ゼミナールによる成果発表が行われた(表2参照)。

表2 令和7(2025)年度 学生による地域活性化プログラム 取組テーマ

No	ゼミナール	取組テーマ
1	石川英樹ゼミ	トチオノアカリと域外との協働による地域ブランディング～栃尾地区活性化事業～
2	高橋哲郎ゼミ	オープンファクトリーで長岡を活性化
3	広田秀樹ゼミ	グラスルーツグローバリゼーション ～地域国際交流を通じ平和を目指す～
4	権五景ゼミ	長岡を学びの豊かなマチにしていこう！

5	坂井一貴ゼミ	キャンプ・アウトドアをキーワードにした地域活性化への取り組み
6	瀧波慶信ゼミ	長岡の伝統産業に観る職人の技 ～長岡仏壇を事例に～
7	百合岡雅博ゼミ	新潟のフードビジネスにチャレンジ ①社会課題や地域課題を認識、②新潟らしさ、③学生ならではの目線での新商品開発
8	喬雪氷ゼミ	長岡市における地域活性化の取り組み ～伝統・歴史・自然資源を活かす～
9	李欣洙ゼミ	長岡市の情報教育と企業支援を通じて、“ITを活かして成長できる地域づくり”に寄与する
10	深谷慎介ゼミ	「社会に開かれ共同性を重視した学習環境」としての「実践共同体」による「地域活性化」の実践と研究

③ 単位制度の実質化

- ・単位制度の実質化（1単位：標準45時間の学修時間）に向けて、学生の授業時間外の学修時間を確保するために、各授業において適切に課題を課す等の対応を行った。
- ・全授業科目のシラバス（授業計画）において学修の到達目標と評価基準をルーブリックにより明示することで、学生の主体的学びを促した。
- ・ラーニング・コモンズの利用方法を履修ガイドに掲載して学生に周知するとともに、後援会のご支援を得てグループワーク用のテーブルと椅子を増設し、学習環境の整備を行った。

④ 学生の学修意欲の向上

- ・アカデミック・アドバイザー制度の一環として、ゼミ担当教員と学生とのマンツーマン面談（半期につき2回以上）を通じて、学生の学修意欲の向上を図った。
- ・各学生のGPA（Grade Point Average）をゼミ担当教員が共有し、学生がGPAを高めるための行動目標の設定を促した。
- ・中退防止の方策として、年間を通して出席状況調査に取り組み、欠席が目立つ学生には早期に連絡を取り、個別に指導を行う等の対応を行った。
- ・学生に資格検定試験の受験を促すとともに、受験対策講座を開講することで合格に向けた支援を行った（表3参照）。
- ・多くの学生が資格検定試験に挑戦し、合格を得た（表4参照）。

表3 令和7(2025)年度 資格検定試験対策講座 開講実績

対応資格検定試験	試験日	対策講座 開講日時	延べ時間 (時間)	受講 人数
Excel 表計算処理技能認定 試験 1級・2級	6月28日	6月17日 14:40～16:10 6月18日 17:00～19:00 6月24日 14:40～16:10 6月25日 17:00～19:00	7.0	7
福祉住環境コーディネータ ー検定 3級	7月10日 ～7月31日	6月11日、6月18日、6月25日、 7月2日、7月9日 16:20～17:50	7.5	7
経済学検定 (EREミクロマクロ)	7月17日	7月10日 14:40～16:10	1.5	9
日本語能力試験 1級・2級	12月7日	10月20日、10月27日、11月5日、 11月10日、11月17日、11月26日 12月1日 16:30～18:30	10.5	6

表4 資格検定試験 受験者及び合格者数推移（令和6～令和7年度）

資格検定試験	令和6(2024)年度			令和7(2025)年度		
	受験者数(人)	合格者数(人)	合格率(%)	受験者数(人)	合格者数(人)	合格率(%)
Word 文書処理技能認定試験 1級	8	7	87.5	3	2	66.7
Word 文書処理技能認定試験 2級	59	44	74.6	23	14	60.9
Word 文書処理技能認定試験 3級	15	9	60.0	7	5	71.4
Excel 表計算処理技能認定試験 1級	8	4	50.0	7	5	71.4
Excel 表計算処理技能認定試験 2級	65	44	67.7	17	12	70.6
Excel 表計算処理技能認定試験 3級	20	14	70.0	14	13	92.9
PowerPoint プレゼンテーション技能認定試験 上級	30	26	86.7	23	15	65.2
IT パスポート試験	3	2	66.7	3	3	100.0
マネジメント検定Ⅲ級（経営学検定初級）	10	8	80.0	9	9	100.0
日商簿記検定2級・ネット検定2級	10	4	40.0	6	4	66.7
日商簿記検定3級・ネット検定3級	23	5	21.7	43	11	25.6
リテールマーケティング（販売士）検定 2級	3	3	100.0	16	13	81.3
リテールマーケティング（販売士）検定 3級	4	3	75.0	12	8	66.7
ファイナンシャル・プランニング技能士 2級	1	1	100.0	2	2	100.0
ファイナンシャル・プランニング技能士 3級	6	3	50.0	8	4	50.0
福祉住環境コーディネーター 3級	37	18	48.6	42	13	31.0
TOEIC 試験 L&R 500点以上	19	3	15.8	6	6	100.0

※受験者数・合格者数ともに大学に報告のあったものに限られるため、合格率は参考値。

⑤ 図書館の利用促進

- ・「図書館だより」を毎月発行し、各種特集、図書館の使い方講座、新着図書紹介、展示コーナーの紹介等、学生・教職員への定期的な情報発信を通して利用促進を図った。
- ・新聞データベースの使い方やリサーチナビの活用法を「図書館だより」にて特集し、使い方がわからない学生には支援をおこなった。

⑥ 教育の ICT 化

- ・年次進行で進めてきた学生のノートパソコンの持参（BYOD: Bring Your Own Device）が整い、1年次から4年次までの全学生が個人所有のノートパソコンを持参し、学修する体制が整った。
- ・学内の無線 LAN アクセスポイントのうち5台を更新し、Wi-Fi 通信速度の改善を図った。

(4-2) 学生支援

① 課外活動を通じた学生の社会人基礎力の向上

- ・学友会及びサークル活動の活性化に向けた支援を行った（表5参照）。1年生を中心とした同好会が新たに2団体設立され、学内イベントの開催や参加等、活発な活動が展開された。
- ・ボランティアサークルの長岡大学レオクラブは、日頃のボランティア活動への取組みが評価され、ライオンズクラブから数々の表彰を受けるとともに、新潟県の代表として国際大会（第6回 OSEAL レオフォーラム 2025 大阪：2025年11月7日～9日）に派遣された。
- ・年間を通してボランティア・ボード（ボランティア募集掲示板）及びメール配信等による学生へのボランティア関連情報の周知と応募受付を行った。

表5 令和7(2025)年度 サークル・同好会一覧

学友会	登録人数	文化系サークル	登録人数	学術系サークル	登録人数
学友会執行部	41	カードゲーム	6	英語	7
悠久祭実行委員会	41	軽音楽	53	日本経済新聞を読む会	6
運動系サークル	登録人数	管楽器	7	簿記検定	33
バスケットボール	15	GAME	18	マーケティング	5
バドミントン	33	茶道	7	同好会	登録人数
バレーボール	50	写真	9	創作	12
トレーニング	20	シェアスペース研究	12	テニス日和	8
フットサル	20	TRPG	6	デジラボ	6
		長岡大学レオクラブ	42		
		麻雀	22		

② 学生の自主的活動に対する支援

- ・令和7(2025)年9月20日(土)～21日(日)に悠久祭(大学祭)を開催し、盛況のうちに終了することができた。
- ・学生の自主的活動を支援するヒューマン・パワーアップ・プロジェクト(公募型人間力育成奨励金制度)に3件の事業を採択し、長岡大学後援会の協力を得て各事業の取り組みを支援した(表6参照)。

表6 令和7(2025)年度 ヒューマン・パワーアップ・プロジェクト採択事業

団体名	事業名	採択額	コース
茶道サークル	茶事	49,999円	A
GAMEサークル	ボードゲームで地域図書館を盛り上げたい!	100,000円	S
英語サークル	猪俣式! TOEICスコア爆上げ講座2025	53,000円	S

【Aコース】助成金額3万円以上5万円未満、書類審査のみで採択

【Sコース】助成金額3万円以上10万円以下、書類審査のみで採択

- ・資格取得奨励金に121件の申請があり、資格検定試験の難易度に応じた奨励金の給付を通じて学生の自主的学習に対する経済的支援を行った。
- ・長岡悠久会(同窓会)のご協力により、生活支援の目的で学生への昼食券の配布を2回行った。
- ・後援会のご協力により、ゼミナール活動への補助や課外活動用の学内設備の拡充を行い、学生の自主的活動の支援や環境づくりを行った。

③ 奨学金制度による学生への経済的支援

- ・(独)日本学生支援機構奨学金制度の学生への周知と適切な貸与・給付手続きの支援を行った。
- ・成績が思わしくない奨学金受給者に対して、学長、学生委員長と学生課長が面談を行い、個別指導を通して学習への動機づけを行った。

④ 充実した大学生活の実現に向けた支援

- ・障がいのある学生の相談に対応し、個々の状況に応じた修学上の支援や配慮について全学的に取り組んだ。
- ・学生一人ひとりの人権を尊重し、ハラスメントを防止するために、各学年の新学期オリエンテー

ションにおいてハラスメントに関する学生への周知を図った。また、一年次必修科目の「キャンパスライフ入門」の1コマで臨床心理士による講義を通じてハラスメント防止に対する意識付けを図った。

(4-3) キャリア支援

① 就職及び進路について早期からの意識付け

- ・学生の就職意識を高めるためにキャリア科目等における企業講師の招聘を計画的に実施した。
- ・企業見学バスツアーを計5回実施し、学生に業界研究の機会を提供した（表7参照）。

表7 令和7(2025)年度 企業見学バスツアーの概要

回数	日付	訪問先企業	参加者数
第1回	5月29日(木)	(株)SANKA、江部松商事(株)、(株)マルタケ、新潟トヨタ自動車(株)	16名
第2回	6月13日(金)	(株)新潟県厚生事業協同公社、(株)スミック、新潟太陽誘電(株)、Jマテ. カッパープロダクツ(株)	18名
第3回	6月26日(木)	(株)田中衡機工業所、燕市役所、(株)加賀田組、新潟総合警備保障(株)	17名
第4回	7月11日(金)	久保誠電気興業(株)、リコージャパン(株)、(株)大光銀行、アークランズ(株)	21名
第5回	9月8日(月)	(株)コメリ、遠藤商事(株)、(株)AIRMAN、(株)諸長	17名

- ・就職活動の基礎となる就活マナーについて「キャリア開発Ⅲ-2」（3年次必修科目）において学生の能力向上を図った。
- ・令和8(2026)年1月27日(火)～28日(水)、長岡グランドホテルにおいて89社の企業の参加を得て本学主催の合同企業セミナーを開催し、地元企業に対する学生の理解を深めた。
- ・令和7(2025)年4月23日(水)、全学年を対象とした本学主催の「公務員業務説明会」を開催し、計70名の学生が参加した。当日は、公的機関10団体の人事担当者から各機関の業務内容についてご説明いただいた。

② 就職マッチングの徹底による就職後のミスマッチ防止

- ・就職支援室職員が年間を通して企業訪問を行い、詳細な求人情報を収集した。
- ・学生、就職支援室職員、ゼミ担当教員の三者で就職活動の状況を共有し、学生の就職活動を支援した。

③ 留学生の日本での就職を支援

- ・留学生の日本での就職を支援するため、適宜留学生への就職関連情報の提供を行った。

④ 本学卒業生の入社後のフォローアップ

- ・本学の卒業生が就職した企業を就職支援室職員が適時訪問し、入社後のフォローアップを行った。また、やむを得ず離職した卒業生に対しては要望に応じて再就職支援（6件）を行った。

(4-4) 学生募集・広報

① 志願者数の増加

- ・延べ229回（前年度205回）の高校訪問を実施し、進路指導担当教員への情報提供を行った。
- ・進学説明会、出前講座、分野別・系統別説明、小論文・面接指導等に計136件（昨年度128件）参加した。

- ・高校、中学校等の生徒による大学見学を 26 件（前年度 28 件）受け入れた。
- ・公式ホームページ、SNS を活用し、継続的に鮮度の高い情報発信に努めた。

② 入学定員の充足

- ・オープンキャンパス：7 回（3 月 15 日、5 月 25 日、6 月 21 日、7 月 19 日、8 月 9 日、8 月 23 日、9 月 6 日）、進学相談会：2 回（9 月 20 日、9 月 21 日）、入試対策講座：3 回（10 月 4 日、12 月 13 日、1 月 24 日）を計画通り実施し、参加者に本学の学びの特徴と魅力を伝えた。

③ 適切な入学者選抜の実施

- ・アドミッション・ポリシーに基づき、本学の入学者選抜方法の点検を行い、一部見直しを図った。
- ・次年度の入学者選抜試験について、志願者が受験しやすい実施日程案を検討した。
- ・本学が利用しているインターネット出願システムと大学入学共通テストの電子出願システムとの連携機能について、業者の協力を得て円滑に導入した。

④ 留学生入試の実施方針の策定

- ・国際交流委員会と入学委員会の連携の下、留学生入試の試験日程等の実施方針を検討し、留学生入試（国外）については、モンゴル及び中国で入学者選抜を実施した。
- ・今年度初めて留学生特別選抜（国内）の東京会場を設け、12 名の受験者を得た。

⑤ 文化講演会の開催

- ・本学主催の文化講演会「トランプ 2.0 と日本経済 ～激変する世界にどう対応するか～」を開催し、約 100 名の参加者を得た。

長岡大学文化講演会 2025

日時：2025 年 10 月 3 日（金）18:30～20:00

会場：ホテルニューオータニ長岡 NC ホール

演題：「トランプ 2.0 と日本経済 ～激変する世界にどう対応するか～」

講師：矢嶋 康次氏

（ニッセイ基礎研究所 総合政策研究部専務理事 エグゼクティブ・フェロー）

(4-5) 地域連携

① 地域志向研究の推進と地域への研究成果の還元

- ・当年度の地域志向研究として 2 件の研究課題を採択し、各教員による調査研究を支援した（表 8 参照）。
- ・上記の地域志向研究の研究成果は、令和 8（2026）年 3 月 4 日（水）に本学で開催された「地域志向教育研究成果発表会」において報告が行われ、教職員間で共有した。

表 8 令和 7（2025）年度 地域志向教育研究 採択課題

研究者	調査研究課題
山川 智子 教授	新潟県内の災害時におけるペット同行避難に関する現状調査
李 欣洙 専任講師	新潟県の人流動向に関する基礎調査

- ・前年度（2024 年度）に本学教員が取り組んだ地域志向研究の成果を地域に還元するため、令和 7（2025）年 11 月 17 日（月）に長岡リリックホール・シアターを会場として「高齢者の居場所と生きがいづくり」のテーマで地域連携研究センターシンポジウムを開催した（表 9 参照）。
- ・論文誌「地域連携研究」（11 月）を刊行し、学外に向けて教員の研究成果の発信を図った。

表9 長岡大学地域連携研究センターシンポジウム 2025 概要

テーマ	高齢者の居場所と生きがいづくり
日時	2025年11月17日(月) 13:30~15:30
会場	長岡リリックホール シアター (長岡市千秋3丁目1356番地6)
対象者	老人クラブ関係者・行政関係者 他
参加者	137名

② 関係諸機関との連携の推進

- ・NaDeC(ナデック)構想に基づく市内4大学1高専と長岡市、長岡商工会議所との連携により、新産業の創出と次代を担う人材の育成に取り組んだ。
- ・長岡商工会議所、NPO法人長岡産業活性化協会 NAZE等の産業界との連携を行い、産業振興に協力した。
- ・長岡市及び長岡商工会議所の4件の調査に協力した(表10参照)。

表10 令和7(2025)年度 受託調査一覧

名称	委託者	期間	担当
長岡商工会議所会員アンケート調査	長岡商工会議所	6月23日~9月30日	石川 英樹(教授)
男女共同参画に関する市民意識調査	長岡市	6月16日~3月31日	村越 真紀(准教授)
障害者生活実態調査	長岡市	6月1日~3月31日	牧野 智一(准教授)
介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	長岡市	10月1日~3月31日	米山 宗久(教授)

③ 地域活性化への貢献

- ・令和元(2019)年度から取り組んできた栃尾地域の活性化を目指した事業を引き続き展開した。
- ・令和8(2026)年2月28日(土)に、栃尾地域での活動の集大成として「2025年度 栃尾交流促進シンポジウム」を開催し、後半のワークショップでは20名(高校生2名、社会人18名)の参加者同士が栃尾地域への思いを語り合った。

④ リカレント教育(社会人学び直し)の推進

- ・本学の専門性を生かした長岡大学公開講座をまちなかキャンパス長岡において全6講座開講し、延べ109名の受講者を得た(表11参照)。

表11 令和7(2025)年度 長岡大学公開講座 一覧

講師	講座名	日時	受講者数
浦上 義昭(日本画家)	日本画の魅力と画家として歩んだ道(全1回)	6月23日(月) 18:30~20:00	27名
李 欣洙(専任講師)	AIカメラを利用した空き地活用(全2回)	7月9日(水) 7月16日(水) 18:30~20:00	17名
吉川 宏之(准教授)	Excelショートカットキーと文字列関数(全2回)	7月14日(月) 7月28日(月) 19:00~20:30	11名

伴 浩美 (教授)	えいご de スヌーピー (全1回)	8月10日(日) 10:00~11:00	16名
丸山 一郎 (特任教授)	日本経済新聞を学ぼう! (全2回)	8月19日(火) 8月26日(火) 19:00~20:30	24名
中村 大輔 (准教授)	上場企業の決算書を読んでみよう (全5回)	9月25日(木) ~10月23日(木) 18:30~20:30	14名

⑤ まちの駅としての施設開放

- ・「まちの駅 長岡大学」の機能として、トイレ、図書館等の施設の一部を一般に開放した。

(4-6) 国際交流

① 優れた留学生の受入れ

- ・中国とモンゴルの国外入試を実施し、中国から4名、モンゴルから4名、計8名の留学生（1年次：7名、2年次編入：1名）を受け入れた。また、国内からは10名（1年次：8名、2年次編入：2名）の留学生を受け入れた。

② 留学生の充実した大学生活に向けた支援

- ・5月に留学生連絡会を開催し、留学生に対して、日本での生活上の留意点やビザ更新に向けた学修面での留意点等についての説明を行った。
- ・留学生の修得単位数及び出席状況を確認し、個別に指導や支援を行った。
- ・日本語能力試験の受験を促すとともに、受験者には延べ約10時間の対策講座を開講し、合格に向けた支援を行った。

③ グローバル社会に向けた意識向上

- ・学生食堂の運営業者にご協力いただき、留学生の母国の一つであるベトナムの料理を1日だけメニューに加えてもらった。第1回目は令和7(2025)年11月12日(水)、第2回目を12月16日(火)に実施し、いずれも数量限定で販売を行った。

(4-7) 研究

① 外部研究資金獲得の促進

- ・全教員を対象として、科研費の応募に対する効果的な申請書類の作成に関する研修会を8月20日(水)に開催し、採択に向けた申請書のポイントについて確認した。
- ・令和8(2026)年度科研費の本学申請分について、採択された研究課題はなかった。
- ・外部研究資金の獲得を促進するために、年間を通じて企業や研究支援団体から寄せられる研究公募情報を総務課で適時に取りまとめ、教員へのメール配信により周知を図った。

② 研究倫理教育及びコンプライアンス教育の徹底

- ・不正のない研究環境を維持するため、8月20日(水)に外部講師による「研究倫理・コンプライアンス研修会」を開催した。
- ・研究倫理・コンプライアンスに対する研究者の意識を高める啓発活動を教授会(6月18日、2月18日)において実施した。

(4-8) 業務運営

① 内部統制システムに基づく適切な業務運営と点検・改善

- ・各部署は、内部統制システムの下で一年を通して適切な業務運営に取り組んだ。
- ・内部監査の予備調査として、内部監査室長による各部署へのヒアリング調査を実施した。

② 危機管理業務の強化

- ・本学の危機管理（基本・個別）マニュアルの点検と一部の改訂を実施し、改訂箇所について教職員への周知を図った。
- ・令和7（2025）年9月11日（木）に、教職員による消防・防災訓練を実施した。

③ 業務効率化の推進

- ・従来から取り組んできた5S（整理、整頓、清掃、清潔、習慣化）活動を当年度も事務局を中心に計画的に実施した。

④ 業務のICT化

- ・教職員の情報リテラシーを継続的に高め、業務効率化を推進するため、令和7（2025）年8月21日（木）と令和8（2026）年3月4日（水）に、教職員対象の「学内の業務効率化（デジタル化）に関する講習会」（各2時間）を開催した。

⑤ 大学開学25周年記念事業の計画

- ・令和8（2026）年4月1日に迎える大学開学25周年を記念する事業の計画に着手した。

(4-9) 人材育成

① 教職員の資質・能力向上

- ・教職員の資質及び専門的能力の向上を図るため、SD（Staff Development：教職員の職能開発）を計画的に実施した（表12参照）。
- ・学長裁量経費を利用した教職員の自己啓発（スキルアップ、資格取得など）に対する支援について、今年度は応募者がなかった。

表12 令和7（2025）年度 SD開催実績

開催日	開催時間	内容
4月23日(水)	16:30~18:00	令和6年度中期計画達成に向けた「行動実績」の発表
		令和7年度中期計画達成に向けた「行動計画」の発表
5月21日(水)	16:30~18:00	昨年度入試結果の分析と振り返り
6月18日(水)	16:20~16:50	令和6年度決算及び令和7年度予算説明会
	16:50~17:40	「教育改革の基礎となるIR（大学自己分析）の必要データと手法の検討～学生募集に関するデータの再分析と全国および新潟県・近隣県の大学等進学状況の調査～」
7月16日(水)	16:30~18:00	ハラスメント防止講習会
8月20日(水)	13:00~13:30	研究倫理・コンプライアンス研修
	13:30~14:30	科研費申請説明会
	14:40~16:10	障がいのある学生への支援
8月21日(木)	9:30~10:30	学生募集に関する情報共有
	10:40~12:10	「授業の過程での著作物利用～改正著作権法35条に基づいて～」
	13:00~15:00	学内の業務効率化（デジタル化）に関する講習会
9月11日(木)	9:30~10:30	消防・防災訓練
9月17日(水)	13:00~14:00	学生満足度調査からの報告
11月19日(水)	16:30~18:00	中期計画達成に向けた行動計画の中間報告
3月4日(水)	13:00~15:00	学内の業務効率化（デジタル化）に関する講習会
	16:30~17:15	卒業生アンケートおよび卒業生の就職先ヒアリングからの報告

(4-10) 内部質保証・情報公開

① 自己点検・評価の実施

- ・中期計画に基づく年度ごとの事業計画に従って、各部署（各委員会）が行動計画を定め、目標管理シートを利用して四半期ごとに進捗を確認した。
- ・各委員会から四半期ごとに提出される目標管理シートの進捗状況を大学評価室が点検・評価し、必要に応じて改善の指示を行った。
- ・年度ごとの事業計画及び達成状況をまとめた事業報告書を大学評価室が作成し、外部有識者で構成される「地(知)の拠点」事業推進協議会（令和8年3月20日開催）において評価・助言を受けた。

② 情報公開の推進

- ・本学公式ホームページに掲載する本学の基礎データを適切に更新するとともに、様々な取り組みに関する案内や報告を「新着情報」として積極的に発信することで情報公開を推進した。

③ IR (Institutional Research)*の推進

- ・前年度（令和6年度）の学長裁量経費に選定された「教育改革の基礎となるIR（大学自己分析）の必要データと手法の検討～学生募集に関するデータの再分析と全国および新潟県・近隣県の大学等進学状況の調査～」(坂井一貴教授)の調査結果について、令和7(2025)年6月18日（水）開催のSD会議において教職員間で共有した。
- ・前年度（令和6年度）に実施した全学生を対象とする「学生満足度調査」の集計結果について、令和7(2025)年9月17日（水）開催のSD会議において教職員間で共有した。
- ・本学卒業生を対象とする「卒業生アンケート」および卒業生の就職先企業を対象とする「就職先ヒアリング」を行い、「学生基礎データ」に基づいた分析を行った。分析結果は、令和8(2026)年3月4日（水）開催のSD会議において教職員間で共有した。

※教育、研究、財務等に関する大学の活動についてのデータを収集・分析し、大学の意思決定を支援するための調査研究

(5) 入試に関する状況について

① 入学者数

- ・1年次では、入学定員125名に対して83名（前年96名）の入学を許可した。
- ・2年次へ1名、3年次へ2名の編入学を許可した。
- ・新潟県内の高等学校等からの入学者は63名であった。

② 志願者数

- ・日本人の延べ志願者数は131名（前年141名）であった。
- ・学校推薦型選抜（指定校、公募）の志願者は37名（前年56名）であった。
- ・総合型選抜の志願者は8名（前年9名）であった。
- ・一般選抜の志願者は32名（前年22名）であった。
- ・大学入学共通テスト利用選抜の志願者は54名（前年54名）であった。

③ 合格者の入学状況

- ・一般選抜と大学入学共通テスト利用選抜を合わせた合格者68名（前年61名）のうち入学者25名（前年27名）の割合は36.8%（前年44.3%）であった。

(6) 卒業生数、学位授与数と学生の活動に関する状況

① 卒業生数及び学位授与数 [名]

学科	令和7(2025)年9月卒業		令和8(2026)年3月卒業	
	卒業生数	学位授与数	卒業生数	学位授与数
経済経営	4	4	112	112

② 学位授与数 (男女別・入学年度別内訳) [名]

学科	入学年度					
	令和2(2020)年度		令和3(2021)年度		令和4(2022)年度	
	男	女	男	女	男	女
経済経営	1	—	4	1	83	27

③ 進学状況

令和8(2026)年3月卒業生

(大学院) ・大原大学院大学 1名

(7) 就職の状況

- ・令和7(2025)年度卒業生の就職率は98.1% (就職者105名/就職希望者107名) となり、企業訪問による求人開拓や、企業と学生のマッチングを強みに高い就職率を維持することができた。

【長岡大学就職率の年度別推移】

年度	令和3 2021	令和4 2022	令和5 2023	令和6 2024	令和7 2025
就職率	99.0 %	99.0 %	99.0 %	98.7 %	98.1 %

※就職率 (就職者数 ÷ 就職希望者数 × 100)

【主な就職先】（順不同、[]内は人数）

建設業	医療福祉	協栄信用組合
株式会社阿部建設	社会福祉法人永寿荘	三条信用金庫 [2]
伊米ヶ崎建設株式会社	株式会社クレアメディコ	第四北越証券株式会社 [2]
株式会社植木組	卸売業	長岡信用金庫
株式会社加賀田組	江部松商事株式会社	日新火災海上保険株式会社
株式会社国土	遠藤商事株式会社	明治安田生命保険相互会社
積水ハウス株式会社	クロスウィルメディカル株式会社	運輸業
株式会社ペイントホーム	昭和電機産業株式会社	日本貨物鉄道株式会社
みらい建設工業株式会社	株式会社スミック [3]	マルソー株式会社
製造業	株式会社たかだ	情報通信業
株式会社 AIRMAN [3]	トヨタモビリティパーツ株式会社	株式会社 NS・コンピュータサービス
株式会社 JVC ケンウッド長岡	日本住環境株式会社	株式会社ミロク情報サービス [2]
株式会社 SANKA [5]	株式会社ハーモニック	株式会社ユニテック
株式会社愛工器械製作所	花村産業株式会社	サービス業
阿部幸製菓株式会社	株式会社マルタケ	株式会社 IINO DOJO
有限会社池田シャープナー	株式会社未来ガ驚喜研究所	上越マテリアル株式会社
越後製菓株式会社	株式会社諸長	株式会社スプリックス
エヌ・エス・エス株式会社	小売業	東京パワーテクノロジー株式会社
株式会社北村製作所 [2]	株式会社アークランズ [4]	新潟総合警備保障株式会社
株式会社コロナ	アイテレコム株式会社	パールファクトリーパートナーズ株式会社
テーブルマーク株式会社	アクシアルリテイリンググループ [3]	パートナーズプロジェクト税理士法人
株式会社東京めいらく	株式会社オーシャンシステム	株式会社ビーバーズ
新潟太陽誘電株式会社 [2]	株式会社川内自動車 [2]	みそら税理士法人
バクマ工業株式会社	株式会社クスリのアオキ [2]	株式会社ユー・エス・エス
株式会社プラスパッケージ	株式会社コメ兵ホールディングス	ライクスタッフイング株式会社
株式会社堀吉食品	株式会社スズキ自販新潟 [2]	ラミコジャパン株式会社
森井紙器工業株式会社	株式会社ドン・キホーテ	飲食サービス業
株式会社ヤマグチ機械	株式会社新潟ダイハツモーターズ	株式会社アールディーシー
株式会社ヨシカワ	新潟トヨタ自動車株式会社	株式会社雪国リゾートインフォメーション
不動産業	株式会社日産サテリオ新潟西	公務
株式会社カチタス	金融・保険業	五泉市役所
株式会社リビングギャラリー	加茂信用金庫	新潟県警察

(8) 令和7(2025)年度 施設・設備の整備状況

- | | |
|------------------------|---------------|
| ① 2号館教室FF暖房機入替 | 費用：1,188,000円 |
| ② 体育館バスケットボールリングフレーム修理 | 費用：414,700円 |
| ③ 2号館油送制御装置交換 | 費用：330,000円 |
| ④ 3号館地域交流ホールエアコン修理 | 費用：264,000円 |
| ⑤ 3号館男子トイレ修理 | 費用：173,800円 |

Ⅲ 中越高等学校に関する事業の概要

令和7年度については、本校にとっては一つの大きな節目と飛躍の年となった。

まず、令和7年度は本校創立120周年を迎える年であり、次のような各種記念事業や行事をすべて成功裏に終えることができた。

- (1) 記念式典・講演会及び祝賀会（10月19日（日））
- (2) 記念行事
 - ・ 記念体育祭（6月12日（木））※雨で順延し、この日となった。
 - ・ 記念文化祭（9月5日（金）・6日（土））
- (3) 記念事業
 - ・ 桜の苗木植樹（5月13日（火））
 - ・ 記念ジョイントコンサート：本校吹奏楽部と立命館大学応援団吹奏楽部との合同演奏会（8月17日（日）長岡市立劇場にて）
 - ・ 記念対抗戦：本校野球部 vs. 広島県立広島商業高等学校野球部（11月2日（日）悠久山球場にて）
 - ・ 120周年記念誌発刊（令和8年3月発刊済み）

また、部活動等の活躍も目覚ましかった。

たとえば、栄えある3つの「甲子園」への出場（野球部、写真部、書道部。写真部は全国優勝）及び陸上競技部の高校駅伝県大会において自らが持つ記録を塗り替える新記録で優勝し、2年連続の都大路での全国高校駅伝大会出場を果たした。陸上競技部については、卒業生が大学箱根駅伝等の大会に選手として出場し、また、競歩については卒業生が日本選手権マラソン競歩において優勝。9月開幕の愛知・名古屋アジア大会への出場権を得た。加えて、全国都道府県対抗男子駅伝大会においては、新潟県の代表として本校卒業生とともに現役生徒も選手として出場し、一般・高校の部を中越高校生が独占した。

さらに、日米の野球殿堂入りの偉業を成し遂げたイチローさんの訪問・指導を、主に野球部を中心に受けることができた。

加えて、東京で行われたデフリンピックにおいて、本校女子生徒が女子バレーボールの選手として出場し、見事金メダルを獲得した。

生徒募集についてもうれしい結果となった。令和8年度の入学者数は425名。定員（320名）を大幅に上回り、普通コースの3クラス増となった。令和8年度から開始となるいわゆる「高校授業料の無償化」の追い風と、本校の魅力の浸透が大きな要因と考えられる。近年にはない好結果であり、まさに「中越旋風」を感じているところである。

（1）教育研究について

本校は、「建学の精神」を、「進取の精神」と「文武一如」の校風と、「質実剛健」の校訓に具体化し、社会人準備期間にある青年として成長させるべく教育を行っている。教育の成果として現れる具体的なかたちとしては、勉強と部活両面における「質の高い自己実現」である。本校の恒久的なスクール・スローガンであり根本的教育精神を象徴することば「明るく 進取の精神 『若き今日 眉上げん』」のもと、令和7年度は、「創立120年 つなぐ 越高プライド！」を校長の掲げるスクール・スローガンに据えた。令和7年度は本校の歴史の大きな節目となる創立120周年の年であった。このような中越高校のすばらしい歴史と伝統を、後の世代に残し、継いでいく当事者は本校の生徒であり、また、私たち中越高校の教員や職員である。それはまた、越高生としての、あるいは、越高の教員や職員としてのかけがえのないプライドを改めて私たち自身が認識し、それを後の世代につないでいくということに他ならない。その思いを、ぜひ令和7年度1年間は特に強く意識したい。そのよ

うな希望と願いを込めて、このスローガンを設定した次第である。結果、生徒及び教職員一人一人がそれぞれの「力（パワー）」を高め、勉強にせよ、部活にせよ、学校行事にせよ、あるいは進路実現にせよ、今持っている力以上のさらにその先の、その上の力を発揮することを目指して前へ突き進みながら、全校一致結束して具体的に目に見える結果や実績を出すことができた。

課題としては、普通コースの指導、特に教科学力向上と特進コースのテコ入れであり、その解決に向けた対策は前年度までと同様に以下の取り組みを行い、成果も出ている。1～2年生については、①週末課題、②基礎学力や学習習慣の調査として全国的な規模で行われている「スタディサポート」と「基礎力診断テスト」の有効活用、③学習意欲の喚起・学習習慣や基礎学力の定着に向けた手だてをとっている。更に、1・2年生の学力不足生徒向け温習は改善しながら取り組んでいる。④すべての学年で進学者向け特別補習（通年放課後補習及び長期休業中の補習）、年数回の各種・各社による外部模擬試験受験、就職補習（3年生）、小論文・面接指導（3年生）などを行っている。

ア. 教員個々の力量アップと校務運営及び教員組織力の強化

① 教育の専門家としての力量を高める。

- a. 半ば形骸化していた従来の校内授業公開を令和4年度に復活させ、令和5年度以降は実施回数も増やし、また、より中身の伴ったものに改革・改善した。令和7年度は実施回数はやや減少したが、その質をより高める形で改善をし、令和8年度も引き続き実施する予定である。
- b. 中学校を含む他校や校外から参観者を募って行う公開研究授業・発表・研修会については、令和6年度は地歴公民科で実施を予定していたが、豪雪のため実施2日前に急遽中止を余儀なくされたが、令和7年度については数学科において無事実施が実現し、大きな成果を得た。今後とも継続したい。
- c. カリキュラム変更・観点別評価の方法を決める際に、教科の意見を求め、情報共有をした。また、令和4年度から観点別評価が変わったこともあり、令和5年度以降は観点別の評価をするために、授業展開をどうするか等、教科で話し合う姿が増えた。令和7年度も、教科間での相互理解を図りながら、よりよい評価の方法や形態を取り入れることができた。このような、取組は今後も継続して行い、授業改善等に取り組む、また、生徒の進路実現に寄与していきたい。

以上の取組は、今後さらに充実・拡充し、継続し、徹底したい。

② 校務運営の効率化と教育活動面の充実を両立させる。

- a. 教職員それぞれに一人一台配備されてあるPC端末とタブレットなどの機器を使って、教職員間の情報共有及び分掌庶務や各種会議の効率化を図り、より円滑な校務運営を行っている。
- b. 上記タブレットや電子黒板等を用いたICT教育が、本格的に行われている。生徒の効率的かつ効果的な学習を促し、教員の授業力の向上に資するべく、日々改善に取り組んでいる。

イ. ペーパーレス化及び省エネ・節約の推進

① 上記PC端末とタブレットの活用により、ペーパーレス化を促進している。

- ② 令和7年度も、反故紙（裏紙）の使用を積極的に推奨した。結果として、コピー用紙の使用枚数及び金額は、それぞれ順に前年比105.4%と105.1%とほぼ横ばいだった。また、節電、節エネ、節水についても常時呼び掛けてきたが、電気・ガス・水道いずれも代金の値上がりの影響を受けて、昨年度よりも支払金額は増加した（対前年比は以下の通り）。諸物価の高騰の影響は大きいと言わざるを得ない。ただし、令和6年度における支払金額の対前年比に比べれば、電気・ガス・水道いずれもその数字は減っており、節約・省エネの取組は成果を表しているといえる。一方、中越高校はここ数年定員を超える生徒が入学し、全校生徒の総数及び教職員そのものの数が増えていること、併せて、終わりの見えない諸物価の高騰や、学校の各種教育活動や行事もますます活発になっていることなどを勘案すれば、出費の増加はやむを得ないことだとも考えている。

	支払金額の対前年比
電気	113.7%
ガス	134.5%
水道	122.1%

ウ. 生徒の様々な努力の成果を讃える「年間努力賞」の定着。

1年生 151人(46.2%)、2年生 174人(51.9%)、3年生 171人(51.7%)

(参考：年間努力賞の基準—当該生徒が人格・生活態度で問題ないことが「前提条件」。その上で次の①～⑤のいずれかの条件を満たす生徒が表彰対象となる。①年間の学習成績優秀、②部活動の好成績、③英検・漢検・数検等の上級取得、④部活動に含まれない校外での顕著な活躍、⑤継続的なボランティア活動や人命救助等の実績)

エ. 学習習慣づけ・基本的な生活習慣づけに向けた生徒指導の徹底

① 毎日の登下校指導（校長も毎朝生徒玄関で挨拶と声がけをしています。）

*登下校とも頭髪服装検査と挨拶の励行が基本指導。

*登校指導ではこれに加えて、駐輪場での自転車の置き方の指導・二重の鍵かけ指導を生徒会と共同で実施した。

② LHR、学年集会等の様々な場面で、学習習慣づけ・基本的な生活習慣づけの啓発。

オ. 学校カウンセラーの活用

学校カウンセラー（非常勤、週2回）を配置。生徒はもとより、父母や教職員も活用して、定着している。「いじめ防止対策推進法」に対応した校内組織「いじめ対策委員会」のメンバーにもなっている。

カ. 学力差のある生徒への学力向上対策

① 学力差の大きい生徒が一つのクラスに混在しているので、時間をかけて理解しやすい授業をすること、及び学習習慣や授業マナーの確立のために、夏休みの短縮等で授業時間を増やし、出張の際可能な限り授業変更を行い、自習時間を無くすよう努めている。チャイムスタート・チャイムエンドをはじめとした授業マナーはかなり改善されている。

② 授業レベルに達しない学力が低い生徒向け補習の改善—英数国の3教科で実施。対象生徒は教科担当による指名制。着実に成果を上げている。

キ. キャリア教育・進路指導の充実

① キャリア教育—ワークシート形式の市販教材を活用した指導や、生徒の意識改革をねらった指導に、年間を通して計画的に取り組んだ。

② 大学進学指導—推薦による進学が多く（特に普通コース）、学力不足が否めないのが、対策として推薦希望者全員に大学入学共通テスト受験を義務づけ、学習継続を促している。

特進コースは一般受験を勧めており、授業や補習もこれを前提にしている。

大学進学後も活躍できる学力を保证する為に、平常補習と年3回程度の模擬試験受験を普通コース生徒にも課している。

③ 就職指導—就職試験問題への早期取り組み、三段階の面接指導など、キャリア教育とリンクさせながら、出口指導の改善に取り組んだ。

ク. 部活動の振興

① 「進取の精神」と「文武一如」、「質実剛健」をリードする部活動

部活動の生徒たちが、生き生きとした表情で活動し、勉強も部活動も学校行事も真

剣に取り組む生徒たちが学校の雰囲気を作っている。

- ② 気持ちの良い挨拶、地域の清掃活動などを通して、幅広く地域の皆さんから応援してもらい学校になってきている。以下に、本校部活による地域貢献及び各種交流活動の取組と成果の一端を紹介する。
 - (1) 一般社団法人日本善行会より、本校吹奏楽部と野球部による社会福祉及び環境美化活動が評価され、全国表彰受賞者に決定。表彰式は令和8年5月16日(土)に明治神宮参集殿にて。
 - (2) 吹奏楽部による小・中学校、特別支援学校、長岡市立高等総合支援学校及び各種施設やイベントでの出張演奏会の実施。
 - (3) 野球部による地域の福祉施設等との交流・訪問活動。
 - (4) 野球部と陸上競技部による地域清掃・美化活動(ゴミ拾い)。
 - (5) チアリーディング部(しばしば吹奏楽部との合同で)による各種地域イベントへの参加。地元プロ野球チーム・オイシックスの試合の応援や、大学の野球対抗戦での出張応援など。
- ③ 重点的な部活動を定めて後援会からの補助金予算配分の重点化や顧問配置・外部指導者増加配置を進めている。また、部活動で力のある生徒を、特別奨学生と一般奨学生として採用した。

ケ. 元気な PTA 活動

令和7年度については予定通り各種行事等を行うことができた。具体的には、フォトツアー、卒業生用の花リボン作り、文化祭での食品提供・販売、広報誌発刊など従来のPTA行事を実施。行事のアイデアなどはほとんどの学校では係教師が行事の提案をしてPの役員がそれに乗るという形だが、中越高校では伝統としてPの役員がいろいろな提案をするという点でもユニークで元気のある活動が再開されつつある。実際、過去においてはこれらの取組が評価され、平成22年には文部科学大臣表彰を受けている。

コ. 広報活動の強化

例年よりも多い年延べ6回(7月28、29日及び9月13、21、27日と10月11日)のオープンスクールを開催。参加者総数は1,583名(令和6年度は1,330名)であった。

オープンスクール案内ポスター、中越高校の生徒の活動を伝える新聞(越高スポーツ)、部活動や大学進学に目覚ましい実績があると直ちに校舎に掲げる横断幕、懸垂幕を用意する等の広報活動を行なった。

本校の入試説明会を、塾講師向けと中学校教員向けにそれぞれ1回ずつ、保護者向けに2回(内1回は日曜日に)行った。昨年度に続き今年度も、それぞれの回においてかつてないほど大勢の参加者からお集まりいただき、例年会場として使う本校の大会議室が補助椅子を出しても座り切れず、「立ち見」が出るという過去最高だった令和6年度を上回るさらに大勢の皆さまからご参加いただいた。

(2) 生徒募集について

- 令和7年度の入学人数は、定員を上回る331名(定員+11名)であった。令和8年度の入学人数は、定員をさらに大幅に上回り425名(定員+105名)であった。結果、普通コースの3クラス増となった。
詳しくは別紙(「R8入試状況推移」)を参照されたい。
- 公立高校が第1志望という受検生が多数派である現実が目下の所変えようがないが、難関大学を目指せる長岡地区唯一の私学であり、大学等への進学状況や就職希望者の100%達成及び部活動の成果を内外に発信していく。

(3) 就職・進学について

令和7年度の卒業生は331名。大学・短大への進学者は202名(61.0%、昨年61.5%、一昨年61.7%)、専修・各種学校への進学者は81名(24.5%、昨年24.6%、一昨年30.0%)、就職者は32名(9.7%、昨年10.4%、一昨年4.9%)であった。

令和6年度と比較し、大学等進学者率はほぼ変わらない値であった。女子生徒の大学等進学者率に関しては、令和6年度と比較し若干低下(55.9%、昨年59.5%、一昨年47.8%)、就職率は令和6年度より若干低下した。長岡大学への入学者は5名(昨年8名、一昨年1名、一昨々年6名)であり昨年度に比較し減少した。

(4) 学校評価アンケート結果について

別紙に記載。

(5) 中越高等学校第二次中期計画(R6年度～R10年度)の2年目の進捗状況について

別紙に記載。

(6) 施設等の整備について

① 管理・特別教室棟トイレ改修工事設計料

管理・特別教室棟トイレ改修工事に関し設計・工事監理業務委託契約を締結し、このうち令和7年度中に契約の履行があった設計業務に係る請負契約額を支出した。

支払総額 2,970,000円

② 生徒用机・椅子の入替等事業

生徒用の机・椅子は古く傷んでいるものが多いこと、天板が小さくタブレット端末を使用するのに不便であることから、入替えを行った(令和5～7年度の継続事業の3年目)。

また、令和8年度新入生の増加に対応するため、不足数を追加購入した。

支払総額 6,600,000円(継続事業分)

2,475,000円(追加購入分)

③ 教室等照明LED化事業

教室、廊下等の照明を蛍光灯からLEDに取り替える工事を行った。

工事費 2,112,000円

④ 第1理科室パッケージエアコン等交換工事

第1理科室のパッケージエアコンが故障したため交換工事を行った。

工事費 935,000円

⑤ 教員用パソコンの購入

故障に備えた予備機1台、常勤講師用2台を購入した。

支払総額 897,600円

⑥ 生徒用シューズボックス

令和8年度新入生の増加に対応するため、不足数を購入した。

支払総額 1,140,700円

以上